



命とところを守る
市政を!

横浜市会議員 / 看護師・防災士・博士(心身健康科学)

青葉台小・桐蔭・慶応大

田中 ゆき

討議資料

16
2021.2



プロフィール

- 青葉区育ち、青葉台小学校 ● 桐蔭学園高等学校 / 桐蔭会(会計)
- 慶應義塾大学商学部 / 体育会ボート部 ● 人間総合科学大学大学院 ● 日本航空CA(客室乗務員)
- 看護師(病院・企業・学校・保育・地域包括) ● 桐蔭横浜大学保健室 ● 衆議院議員江田けんじ秘書
- 所属委員会(常任)こども青少年・教育委員会 / 新たな都市活力推進特別委員会

Vol.16

「横浜市の中学校給食」(1) 市民の望む中学校給食の実現を!!

1 2019年4月選挙公約「中学校給食の実現」

市民の望む中学校給食の実現を!!

「ハマ弁」を学校給食法上の「給食」にします!

小学校と同様生徒全員が食べる温かい給食

2 横浜市、2021年4月から「中学校給食の実施」を決定!?

「ハマ弁」(選択制デリバリー型給食)が中学校給食に...

3 何が変わる??

食材の質の向上 (国産比率向上、地産地消など)
栄養バランスアップ (市の栄養士が献立作成)
献立の充実 (郷土料理、行事食など)

4 まだまだ課題があります!!

選択制 全員喫食でない

注文 WEB

供給体制 不十分 最大30%まで

次号へ続く⇒



2021年4月、中学校給食スタート?!

私は2019年4月の選挙公約に「中学校給食の実現」を掲げました。それは、小学校と同様、栄養バランスの整った温かい給食を生徒全員が食べるというものです。

横浜市は今年4月から中学校給食の実施を決めました。しかし、「ハマ弁」を学校給食法上の「給食」に位置付ける内容で、市民の望む給食とは異なります。食材の質や栄養面等は向上しますが、選択制であり、供給量も最大30%と、全員喫食の給食実現には課題があります。今後も市の中学校給食の動向をシリーズ化してお伝えし、皆様の声を市政へ届けて行きたいと思ひます。

原則全員喫食の中学校給食の実現を目指して！！

共働き世帯や働き方が多様化する中、中学校給食のニーズは高まっています。2016年、市が給食の代わりに導入した「ハマ弁」は喫食率も低く、給食の役割を果たしていません。

私は看護師として、子育てや教育現場に従事した経験から、中学校給食の意義を重んじ、原則全員喫食の中学校給食の実現を目指したいと思います。

田中ゆきが考える「中学校給食」の意義

子育て環境の充実

世帯の就労状況が多様化する中、毎朝のお弁当作りの負担を軽減

成長発達の促進

栄養バランスの整った温かい給食により、心身の健やかな成長を促す

食育の必要性

食文化や旬の食材、食の生産・流通等を学び、食を大切にすることを養う

なぜ横浜市には中学校給食がないのか

横浜市では、昭和30年代後半から昭和40年代にかけて急激に人口が増え、それに伴い学校施設の整備が急ピッチで進められました。それまでも給食の提供が無かった中学校では、新たに給食を開始するには財政負担が大きくなり、教室等の整備を中心に学校建設が行われました。そのため、給食室の整備が行われず、お弁当持参を基本としてきたことから、家庭弁当が横浜市の中学校昼食として定着していました。

小学校と同じ給食はできない理由

横浜市においても共働き世帯等が増え、家庭でお弁当を用意することが難しい状況が生じました。市は2014年12月の「横浜らしい中学校昼食のあり方」をまとめるにあたり、給食実施の調査検討を行いました。

その結果、施設整備に多額の費用がかかること、給食室や給食センターの建設に必要な用地がないこと、全校実施までに長い期間小学校と同じような「自校方式」「親子方式」「センター方式」による給食の実施は難しいと判断しました。

なぜ横浜型配達弁当「ハマ弁」が導入されたのか

市は、2011～2012年度にかけてアンケート調査等を行い、中学校給食には「栄養バランスのとれた温もりのある昼食」が求められていることを把握し、その提供方法を検討しました。その結果、市は全校で早期に実施でき、設備費が抑えられ、中学校の日課への影響が少ない「配達弁当」が最適と判断しました。そこで生み出されたのが、民間調理施設で調理し、弁当箱に詰め、保温コンテナに入れて中学校へ配達する「ハマ弁」です。

「家庭弁当」「ハマ弁」「業者弁当」の3つの選択

2016年7月から「ハマ弁」が導入されました。市は「ハマ弁」導入後も、栄養価や量、体調、アレルギー等、一人ひとりの状況に合わせて作ることができる家庭弁当を基本としました。当初は「ハマ弁」は事前予約(7日前まで)が必要でした。そのため、家庭弁当を急に持参できなくなった場合や、「ハマ弁」を注文し忘れた場合などに備え、当日注文できる業者弁当で補完する方法を採用しました。

生徒・保護者から選ばれない「ハマ弁」

「ハマ弁」の喫食率は、2017年4月1.1%、2018年4月1.7%と低迷しました。当初は470円(ごはん・おかず・汁物・牛乳)でしたが、2018年4月、公費負担により、他都市のデリバリー型給食と同水準の340円に値下げしました。しかし、2019年4月の喫食率は3.3%と伸び悩みました。2019年5月からは当日注文の開始、生徒全員でハマ弁を食べる「ハマ弁デー」の開催、味付け・メニュー改善等に取り組みましたが、2020年2月の喫食率は7.3%でした。

2021年4月、「ハマ弁」が中学校給食に？！

横浜市は2021年4月から中学校給食の実施を決めました。今回の給食実施とは、「ハマ弁」を学校給食法上の「給食」に位置付けるという内容です。「ハマ弁」が「給食」に位置付けられることで、保護者負担額が食材費のみとなる(人件費等は市が負担)、国産比率アップ等の質の向上、栄養面・衛生面の強化等です。しかし、全員喫食でない選択制、最大供給量が30%といった大きな課題が残っています。

次号へ続く！

市民の皆様が望む中学校給食には至っていないのが現状です。今後も市の中学校給食の動向についてシリーズ化し、皆様に分かりやすくお伝えすると共に、横浜市の中学校給食に対する皆様の声を市政へ届けて参ります！！